

3月の科学あそび分科会

糸綴じで ミニ本を作ってみよう

3月23日(月) 10:30 ~ 12:00

つづき MY プラザにて

参加者：6名 担当&報告：三田律子

ハードカバーの豆本の製本に挑戦しました。豆本ながらも百科事典や上製本の仕組みで本格的につくりました。

まず、本の歴史の話。本は紙が発明される前からあり、パピルスや石板、木簡、羊皮紙などで作られていたこと。紙は植物の繊維から出来ている。その後の印刷技術などを、紹介しました(*1)。

本の中身(本紙)を印刷するときは、1枚の大きな紙に両面で16ページ分の本文を印刷するように、向きと位置が決まっています。折りたたんで側面を切りそろえるとページが揃うようになっています。なので、実際にページを書いたA4の紙を折ってみました。

おもて

10	7	6	11
51	2	8	41

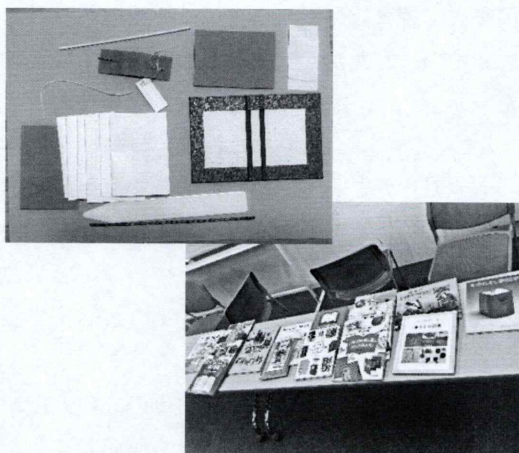
うら

12	5	8	9
81	4	1	91

- ① 右端を持ち上げて左端と重ねる
- ② 本体を時計回りに90度回転
- ③ ①②をあと2回繰り返す
- ④ 真ん中を止めて残りの辺を切りそろえる

今回の製本の材料は、手に入りやすい100円ショップで用意しました。折り紙、色紙(表紙)、コピー用紙(本紙)、封筒(クータ)、水引き(花ぎれ)、りぼん(しおり)、半紙(寒冷紗)、麻ひも(帯麻)、ミシン糸、レザー用針など。また、本紙は時間節約のため16ページを6セットに事前に準備しておきました。

本紙のかがり縫いは、(*2)を参考にしました。本紙のかがり縫いの段階で、しっかり固定するための帯麻を絡めて縫う作業に手間取ってしまう場面もありましたが、全員無事に本に仕上がりました。



【紹介した本】

(*1) 『本のれきし5000年』

辻村益郎 作 福音館書店

(*2) 『手作りで楽しむ紙もの』 1~3

ブティック社

『豆本をつくる』

岡野暢夫 作 創和出版

『本ができるまで増強版 カラー版』

岩波書店編集部 編 岩波書店

『グーテンベルグのふしぎな機械』

ジェイムズ・ランフォード 作 あすなろ書房

『本はこうしてつくられる』

アリキ 作 日本エディタースクール 出版部

『本のことがわかる本』

稲葉茂勝 作 ミネルヴァ書房

『本のつくりかた』

井上のきあ 著 エムディエヌコーポレーション